

平成25年度学校評価報告書【金光大阪中学校・高等学校】

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

I 自己評価関係

1. 実施要領

(1) 教職員による自己評価

- ア 評価対象：92人
- イ 実施期間：平成25年12月19日～平成25年12月21日
- ウ 回答数：92人
- エ 回答率：100%
- オ 実施方法：アンケートによる個人回答調査

(2) 生徒による評価

- ア 評価対象：中学校・第1学年35人、第2学年42人、第3学年36人、
高校・第1学年377人、第2学年367人、第3学年320人、計1177人
- イ 実施期間：中学校、高校第1学年、高校第2学年
平成26年2月17日～平成26年2月28日
高校第3学年 平成25年11月25日～平成25年12月5日
- ウ 回答数：中学校・第1学年35人、第2学年42人、第3学年36人、
高校・第1学年377人、第2学年367人、第3学年320人、計1177人
- エ 回答率：中学校・第1学年100%、第2学年100%、第3学年100%、
高校・第1学年100%、第2学年100%、第3学年100% 計100%
- オ 実施方法：アンケートによる個人回答調査

2. (1) 教職員による自己評価結果

評価項目		評価指標	評価	評価者
1	私学の独自性	1 建学の精神に基づいた「人間平等」「個性尊重」「心を育てる教育」が教員・生徒によく浸透している。	A	教職員
		2 朝礼時における「朝の祈り」が厳粛な雰囲気の中で行われている。	A	教員
		3 教会参拝や感謝祭等の行事が生徒にとって「心を育てる教育」に有効なものとなっていると確信している。	A	教員
2	学校経営の参画意識	4 「学校教育方針」や年度当初、校長によって発表される「学校経営方針」を理解し、積極的に学校経営に参加する意識を持っている。	A	教職員
		5 様々な教育課題の解決に向けた取り組みに積極的に参加し、主体的に行動している。	A	教職員
		6 校務分掌の目標を理解し、組織の一員として積極的に参画し、主体的に職務を遂行している。	A	教職員

3	教育課程・学習指導 (各教科等の授業の 状況)	7	生徒の授業についてのアンケートをもとに、 授業方法の改善や工夫をしており、授業の質 を高めている。	A	教員
		8	生徒の学習効果があがるように、家庭学習の 習慣や教科ごとの学習の仕方について指導し ている。	A	教員
		9	補習や進学講習について、生徒にとって魅力 あるものにするための工夫をしながら取り組 んでいる。	A	教員
		10	到達度の低い生徒に対して、意欲や興味・関 心を引き出す工夫をしている。	A	教員
		11	学習意欲の高い生徒に対して、さらに伸ばす 指導の工夫をしている。	A	教員
		12	生徒に対して情報化社会に必要な能力を身に 付けさせる指導を行っている。	A	教員
4	教育課程・学習指導 (教育課程等の状 況)	13	文化祭や体育大会などの行事に、生徒が意欲 的に取り組めるよう努めている。	A	教員
		14	入学式や卒業式などの学校行事について、人 生の節目としての意義を大切にし、感動のある ものにするよう努めている。	A	教員
		15	部活動の意義を重視し、より多くの生徒が活 動出来る態勢を整えている。	A	教員
		16	生徒の人権を尊重し、人権の侵害や差別意識 の助長を許さない学園づくりを進めている。	A	教員
5	進路指導	17	生徒にとって必要な進路についての情報を提 供し、目的意識を固めるよう努力している。	A	教員
6	生徒指導(生徒指導 の状況)	18	生徒が通学できることに喜びを感じる学園づ くりを励んでおり、欠席や遅刻の防止にも配 慮している。	A	教員
7	生徒指導(生徒の人 格的発達ための指導 の状況)	19	挨拶できることを大切にし、基本的な生活習 慣の定着とマナー向上を図っている。登下校 時の指導も行き届いている。	A	教員
		20	放縦な生活態度を認めず、服装や頭髪指導に おいても規範順守を求めており、ほぼ満足い く状態にある。	A	教員
		21	思春期にある生徒に対して必要な知識や行動 力を身につけさせる指導を行っている。	A	教員
8	保健管理	22	生徒の健康状態を把握することに努め、衛生 や学習環境の安全についても配慮している。	A	教員
9	安全管理	23	事件・事故が発生した場合の迅速な対応につ いて、平素から共通理解ができており、緊急 事態に対応できる。	A	教職員
		24	生徒のプライバシーを尊重しており、個人情 報の管理にもマニュアルを定めるなど特段の 配慮をしている。	A	教職員
10	研修(資質向上の取 組)	25	校内で他の教員の授業を見学したり校外での 研修会に参加して、授業方法等について検討 する機会を持っている。	A	教員
11	情報提供	26	教育活動への理解と協力を得るために、学校 発信の情報提供を行うと共に、保護者からの 疑問や質問にも答えている。	A	教職員
12	保護者、地域住民等 との連携	27	定期的な懇談以外に、電話連絡や家庭訪問を するなど保護者との連携を積極的にすすめて いる。	A	教員

〔2〕生徒による評価〔授業アンケートの集計結果〕

		中学の部			高校の部		
		中1・%	中2・%	中3・%	高1・%	高2・%	高3・%
Q1	授業の理解	77	61.2	84.9	73.5	76.2	80.3
Q2	教材の工夫	83.4	93.2	84.1	79.2	85	88.4
Q3	説明の良否	79.6	84.2	91.4	78.6	84.8	87
Q4	話し方良否	82.9	83.1	84.8	79.9	83.8	86
Q5	板書の適切さ	84.7	83.7	87.1	80.5	81.6	84.9
Q6	質問や回答	86.9	87.8	91.8	82	87.7	88.7
Q7	宿題の適切さ	78.1	83	81.2	79.7	78.2	85.4
Q8	授業の終始	68.9	75.4	76.2	82.1	87.1	87.6
Q9	授業の工夫	78	83.9	84.2	77.9	82.7	83.5
Q10	授業の規律	88	93.1	91.5	82.9	87.1	85.2
Q11	宿題の処理	92.4	83.4	87.4	84	86.6	89.1
Q12	質問、相談	59.7	76.8	84.7	70.5	78	82
Q13	公平さ	82.2	82.6	87.4	83.2	87.7	86.5
Q14	熱意、意欲	77.3	84.5	80	79.5	84.7	84.1
Q15	興味、関心	51.6	64.3	69.7	62.5	69.7	69.3
Q16	予習、復習	50.7	39.8	43.8	42	56.2	58.7
Q17	授業への集中	61.6	54.6	59.5	66.2	72.2	74
Q18	向上への意欲	49.6	48.2	49.6	50.7	60.7	59.4

〔※〕各項目Q1～Q18において、良いと肯定したクラスの人数をそのクラスの構成員全員で除した数値をパーセントに直したものである。また、この数値は複数の担当教員の平均である。

3. 自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策

今回の結果で問題点として取り上げた項目・指標・結果及び今後の改善方策は次のとおりです。

1	評価項目	10		
	評価指標	25	評価	A
	改善方策	評価項目10、評価指標25の研修については、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計が88.8%で評価指標達成度判断規定に照らすとA評価であるが、「よくあてはまる」単独では57.5%にとどまっている。教員にとって研修は基本事項であるので、平成26年度は更に真摯に取り組んでいきたい。		

4. 自己評価結果の公表方法等

	手 段	時 期	対 象
1	保護者広報誌〔育友会「はぐくみ」〕で公表	平成26年3月	生徒・保護者
2	ホームページへの掲載	平成26年8月頃	一般

5. 自己評価に係る校長所見等

平成25年度も12評価項目、27評価指標の全てにA判定が出た。このことは全教職員が心を一つにして学校運営に取り組んだ結果であると感謝している。しかし、上記3で述べたように評価項目10、評価指標25の研修が評価はAであるが、まだ不十分であると考えてるので、本年度の課題として取り組んでいる。

II 学校関係者評価関係

1. 学校関係者評価結果

実施時期	平成26年4月
評価者	育友会役員 保護者 地域住民
評価活動	校長等教員との意見交換 [教職員による自己評価、生徒による授業アンケート等の資料を参考に]
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○育友会会長から「学校の諸活動に先生方が積極的に取り組んでもらっているのを実感している」、副会長から「生徒を公平に指導してもらっている。」等の意見を得た。 ○青少年健全育成協議会、会長は「子どもたちが毎日楽しく学校生活を過ごしている。」と述べられた。

2. 学校関係者評価結果の公表方法等

	手 段	時 期	対 象
1	ホームページへの掲載	平成26年8月頃	一般
2	保護者広報誌〔育友会「はぐくみ」〕で公表	平成26年12月頃	生徒・保護者

3. 学校関係者評価に係る校長所見等

生徒の行動、教職員の取り組み姿勢、家庭での話題等から本校の教育について、概ね肯定的な評価をいただいた。

本校は私立の高等学校でありながら、地域の人々の期待を担っているということが、在校生の出身中学校を見ても一目瞭然で、有難く思っている。

それだけに常に学校外の人々の様々な意見が入り、日常的に学校関係者評価をいただいているとも言える状況である。

以上